

今月の法話

## 一、「感謝の供養・功德の行」

## 二、「想い」と「思い」の違い。そしておごり心とは？

## 三、法華堂と江の島からみる弁財天信仰

### 一、感謝の供養・功德の行

この世は私達自身の魂を磨く修行の道場です。それゆえに楽しみだけでなく、苦しみもまた存在します。その中で功德を重ね魂を磨く方法として先祖や諸霊に対する感謝の祈り（供養）があるのです。心とともに実行することが大切で、自己流でなく縁のある仏様をもって供養してください。一年のうちには祈りの届きやすいタイミングがありますが、七月の施餓鬼会もその一つです。

日頃供養できる先祖や有縁・無縁の霊・友人・恩師・童男童女・水子の霊。特に自死や事故などで亡くなられた方の霊はしっかりと供養する必要があります。また本家や実家がしているからしなくて良いという人もおりますが、実はそれは筋違いなお話なのです。供養の功德は、供養したものと供養された霊の徳となり、その相互作用の中で霊は浄化されていきます。

供養には戒名や法名を用いますが、これは葬儀を経て仏弟子となつてしているためです。俗名でも供養できないということはありません。施餓鬼の護摩供では、供物を供え、御名前を読み上げ、護摩を焚き供養する。参加されることにも大きな意味がございます。ぜひ共に行ってくださいませ。

また卒塔婆も受け付けております。室内の仏壇にお供えするものから、屋外のお墓にお供えするものもご用意できます。卒塔婆とは一般にお釈迦様の御遺骨である舍利を納めた「ストゥーパ」から来ていると言われます。卒塔婆はその音字であり、五輪塔の形を模した形をしています。その卒塔婆を供え、供養することは一層の功德を積む機会であり、卒塔婆はその功德の証でもあります。卒塔婆に書かれた御名前を見ることで、より個人を思い起こして供養することができることでしょう。よろしければご仏壇やお墓に置いてくださいませ。

### 「永代供養について」

最近では跡継ぎや墓守がないという理由から墓じまいをしたり、合同墓に入るという家も増えてきました。急速な社会の変化は家族の形や意味さえも大きく変化させ、同時にお墓の意味も変わってきました。このような状況の中でこそ、供養の大切さはより大きくなってきているように感じます。

「永代供養」という供養の方法があります。「永代」は「ながい間」という意味で、一般には三十三回忌まで、永いものだと五十回忌・百回忌までの間供養を行うことを永代供養と言います。

当山はお墓を持たないお寺として、観音様への信仰を広めてきました。同時に先祖供養の功德を説き、多くの仏様をご供養してまいりました。供養は亡くなられた後も迷うことなく、より善く進むための大切な道です。ご不安の無きよう永代供養を当山でも行っております。

施餓鬼法要、春秋の彼岸、御命日に勉強会での供養と何度もお名前を呼び、思い出しては供養し回向させて頂きます。詳しくは別プリントにてお知らせいたします。

### 二、「想い」と「思い」の違い。おごり心とは？

先月のお話の中で幸せになるためには「自分の意思をしっかりと持って行動すること」とお話しいたしました。人は思いを重ねるとマイナスやネガティブなことを不安ばかり考えてしまいます。故にしっかりとした意思が大切と言いましたが、なかなか覚悟を持って決断することができない人も多いのも現実です。そこで「思い」ではなく「想い」を持ってください。幸せになることを想い、希望することを想い、感謝を想うのです。これなら少しでも実践することができると思います。これだけで人生は変わります。ただし幸せを当たり前前と思ったり、自分の実力と思い上がることは「おごり」と言います。これは必ず逆運となり不幸のもととなります。常に謙虚な心を持ち、疑う心を捨ててよく考えて行動してください。しっかりと自身で確認して、周囲より裏付けを取っていけば安心です。自我の強い人は他人の意見を聞けません。自身の体験を第一に考えがち人が多いのです。これはとてもしスクの大きな行動を生み出すことにもなります。思い立ったら吉日ではなく、焦らず着実に選んで後悔のないようにしてください。「人生はおごり心の戦いなり」これは観音様より最初に告げられたお言葉です。もう一度自身をふりかえってみてください。

### 三、法華堂と江ノ島からみる弁財天信仰

当山の弁財天様はご縁あって巖島弁財天の形をとっております。そのお姿は八臂にして頭上に字賀神を載せている。なんとも不思議な姿ですね。弁財天はインドの水の神であるサラスヴァティを源流に持ち、それはご真言からも分かります。日本に来てから土着の神との融合を経てこの形になったと言われています。

弁財天には主に二種類の流れがあります。それは江ノ島の弁天堂に参拝すると目の当たりにすることができます。江ノ島は日本三大弁財天の一つと言われますが、弁天堂には一体の弁天様が祭られております。どちらも鎌倉時代の尊像で一体は前述の八臂弁財天。もう一体は裸弁財天とも呼ばれる妙音弁財天、美しく白色に彩色された裸体の弁天様が琵琶を持つお姿です。こちらは琵琶を持つお姿から技芸熟達のご利益を持ちます。八臂は主に奈良時代に流行した『金光明最勝王経』、二臂は平安以降の真言密教の重要視される『大日経疏』に基づくとされます。

東大寺三月堂に安置されていた弁財天像も八臂のお姿で、立像で滑らかな衣の表現など女性らしい温かみと美しさを備えた尊像です。元々は吉祥天と同じく吉祥院にあったそうですが、お堂が焼けてより三月堂に移ってきたとされます。長い間法華堂で信仰されてきましたが、塑像であり、破損もあつたため現在は東大寺ミュージアムに安置されています。

この弁財天と吉祥天は同じく『金光明最勝王経』に登場することから奈良時代に信仰を集めた神々で、主に護国のための祈りの本尊として祭られてきました。つまり二月堂・三月堂は護国のための神仏が集まる堂宇であるということですね。弁財天と吉祥天は姉妹のように扱われることもあります。女性の神ということもありそれぞれ夫婦として描かれることもあります。吉祥天の夫は毘沙門天とされますが、弁財天の夫はどなたでしょうか？（正解は勉強会にて！）

江ノ島は古くから弁財天の信仰が盛んであり、五頭龍を教化された伝説は以前にもお話しました。江ノ島には生身の弁財天様がいらつしやるとされ、役行者・泰澄（白山を開いた修験僧）・空海・安然・文覚などの高僧が修行した地でもあります。

生身の仏様というのは、実際に生きていらつしやるお姿として出会う場合（「真身」とも）と、仏像が脈動したり血を流すなどの生きた仏像の場合があります。後者は主に善通寺の阿弥陀如来像や東大寺二月堂の小観音さまなどが当たります。江ノ島の場合は前者であり、江ノ島は弁財天の住まう島とされ鎌倉の仏法の興隆と守護をされているのです。また、鎌倉時代には鶴岡八幡宮の僧侶である良真が天女を見たと言われ、その場所は現在では聖天島公園として整備されています。なぜこれほどまでに江ノ島には弁財天の目撃譚が多いのでしょうか。『金光明経』に曰く弁財天の住処は「或在坎窟及河辺」とあり水辺の岩窟に住むのです。江ノ島の反対側には空海も修行した岩窟があり、鎌倉時代にはここで文覚上人が弁財天を勧請しました。ちなみに生身の弁天様の住まう地はもう一つあり、それが滋賀の琵琶湖に浮かぶ竹生島で、こちらは比叡山の守護をされているとされます。（「安然和尚記」より）

このように弁財天は平民から公家・武士にいたるまで信仰を集めますが、次にその御利益について見ていきましょう。近世では七福神の一体とされたように福德のご利益を持ちますがそれだけではありません。まず江ノ島の岩窟は龍穴とも呼ばれ、祈雨の祈りに用いられました。祈雨は農耕とも非常に密接であります。弁財天の頭上におられる字賀神は農耕の神でもありますから五穀豊穡のご利益を祈られました。また、八臂弁財天は刀剣を持ち、文覚上人は鎌倉殿からの要請で調伏の法を修したように、怨敵退散のご利益もごぞいます。奈良時代から人々とともにあり、時に姿を表し、私達とともにある仏様。それが弁財天です。親しみと敬意をもってお祭りしましょう。合掌

## 南無日月光妙法蓮華経

\*六月のラッキーカーラー、暗剣殺、五黄殺（六月七日〜七月七日） ※一年通してのラッキーカーラーは桜色です。  
\*暗剣殺、五黄殺とは凶方位の事で移転増築や旅行など控えた方が良い方位となります。

六月のラッキーカーラー	赤	白	緑	暗剣殺	東南	五黄殺	北西
-------------	---	---	---	-----	----	-----	----

#### 【お知らせ】

- ① 七月の勉強会の日程：普賢光明寺（鎌倉）七月一日（土）二日（日）四日（火）午後一時より  
機願賀支那（ホテルハービー）：七月十六日（日） 小田原別院：七月三十日（日） いずれも午後二時より。
- ② 盂蘭盆会施餓鬼不動護摩供養を七月二十三日（日）に厳修いたします。年に一度の供養です。一人でも多くの仏様を菩提の心で成仏へお導きください。詳しくは別紙をご覧ください。
- ③ 遶行の日程：彦瀧川遶 六月十八日（日） 七月九日（日） 七月十七日（祝・月） 午前七時集合  
谷日遶 六月二十五日（日） 七月三十日（日） 午前六時集合  
天候等で変更になる場合もございますので事前にご確認ください。初めての方でも作法をお教えますので、ぜひ行ってみてください。（行着の貸出も行っています）なお、行、見学共に同意書の提出が必要となります。
- ④ 仏像彫刻教室：六月二十五日（日）七月九日（日） 正午より
- ⑤ 写経会：施餓鬼に向けた写経会を行います。一回目 六月二十日（火） 十三時より 鎌倉本堂 二十時 オンライン  
二回目 七月十七日（祝・月） 十三時より 鎌倉本堂 二十時 オンライン